

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



大正12年竣工、築94年の神殿を昨年末に新築した東城分教会は、明治30年の設立。現笠岡部内で9番目に古い教会の佇まいは感慨深い歴史を感じさせる。

立教180年
10月号

布教推進講習会開催

9・21 祭典後

布教部

布教部(田中隆之部長)は9月21日、井筒梅夫先生(本部長・本部布教部長・声津大教会長)を講師に迎え、大教会月次祭後に「布教推進講習会」を開催。役員・教会長夫妻・布教所長・よふぼく・信者ら多数が受講した。

講話趣旨は次の通り。

▼まずは、芯になる教会長が神一条にこのたびの「かんろ」だいが倒されると、いう大きな節に、私が痛感したことは、「繋ぎと、一手一つ」です。

今のお道はこれが足りないのではないか、これをお仕込み下さったのではないかとさえ私は思いました。本来折れるはずの「かんろ」だいの大切な繋ぎの部分折れたということをお案しなければならぬと思つたのです。

教会に繋がるべき立場の者が簡単に「お道から離れる」、また、教会とよふぼく、部内・上級・本部との繋がりも充分なのか、道の親を芯に全教が「一手一つ

に繋がり結ばれているのかという事を改めて考えなければならぬのではないか。

「一手一つに結ぶ鍵になるのは、まずは芯になる者が自覚をし、親神様の申し召しに添った心を定めることです。教会の芯である教会長が、この人の言うことであれば間違いないと言つても、それだけの神一条の努力が必要で、そして関わる人々が、芯の心を汲んで、芯を支えて、それぞれの持ち場・立場の役割を心を揃えて勤めまわること、これが「一手一つ」です。

こうして「一手一つに結ぶ」とどんな理のお働きが現れるのだろうか。それは、おさしづをもつて教えられるように、多少の困難があろうが、とんでもない節に遭遇しようが、「一手一つに勇んで掛ければ、日々理が栄える、速やか治まる、どんな守護もする」という、実に嬉しく頼もしい姿をお見せ頂けるのです。

この度の節を機会に、全教が「ちば・かんろ」だいを芯に、道の親・真柱様を芯に、「一手一つに成人の道を歩ませてもらう」ことを、また教会にあつては教会長を芯に、「一手一つに成人の努力を重ねる」ことを改めて心に定めて頂きたい

のです。

▼「信仰の芯」を心に据え直そう

信仰の芯について思案いたしますと、お道には大切な信仰の芯が三つあると聞かされます。一つは場所の芯としての「ちば・かんろ」だいで、もう一つは人の芯としての「真柱の理」。そして神一条とも教えられる「心」の芯としての「教えの理」、日々の生活の芯です。

この三つの芯をしっかりと心に持たせて頂くのが、お道の信仰者です。私達の心が「ちば」に向いているのか、「ちば」の理をいただく信仰をさせて頂けているのかよく考えなければなりません。真柱様を通してお聞かせ頂く親神様の申し召しである「旬々」の真柱様のお言葉に添って通らせて頂けているのだろうか。教えの理に添って通っているのか、自分の都合の良い解釈をして通っていないだろうか。こうしたこともぜひか

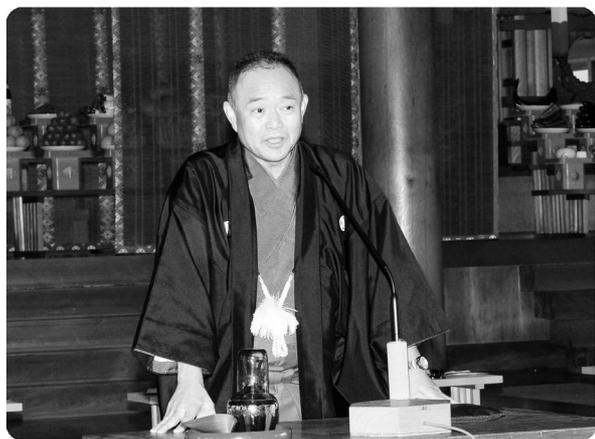
くいただいたこの節に考えなければ節が節でなくなりません。この三つの芯を私達の信仰の芯にしっかりと据えさせて頂きたい。

この三つの芯と共に、私達一人ひとりにも信仰者としての芯があると思えます。それは信仰の元一日であります。

信仰初代の方は、信仰の元一日を忘れずに大切に頂きたいと思つて、大半の方は代を重ねていると思つて、代を重ねていけば初代とは会つたことも話したこともないという方は多いと思つて、しかし初代の気持ちになることは出来ると思つて、そして初代の道すがらには後に続く信仰の「手本」になります。皆様方の初代の元一日に思いを馳せて頂ければ、御恩報じの道を通られた初代の道がそれぞれにあるのです。信仰の元一日があつて今日、私達があることを決して忘れず、お互いの信仰に据えて初代の信仰に立ち返る努力をさせて頂きたいと思つて、

これまでにいただいた御守護の数々も芯だと思つて、自分がいただいた御守護だけでなく、先祖代々・親々がいただいた御守護も、実は現在自分がいただいている御守護だということを決して忘れてはいけません。これによつて初代や先祖、先代が味わえなかつた喜びを味わわせて頂きたいのです。

私の家では、親と子の縁が切れるという「いんねん」が3代続きました。代々数多くの子供が出直し次々と見送つた



御講話下さる井筒梅夫先生

り、子供を授からず養子をいただいたりしてきましたが、私の父の代で私の兄弟が7人、私の子供も7人と元氣においでいただいている。これは元一日を考えれば奇跡なのです。普通奇跡といえれば見えない目が見えるようになった、立たない足が歩けるようになったなどと考えがちですが、そうではありません。信仰の元一日が分かれば、いんねんが自覚できれば、今現在、私達が元氣においでいただいているということは奇跡的な御守護なのです。

す。この道をひたむきに通って下さった親々のおかげで、いんねんも結構にしていたら、初代が味わえなかつた喜びを味わわせていただける、こんなにもありがたいことはありません。初代を始め、親々が堅く心を定めて道に尽くし、数々の御守護を頂戴してきましたが、親々が定めた心定めは私の心定めであり、頂戴した数々の御守護は私の御守護なのです。これが私の信仰の芯です。

皆様方にも親々がいただいた御守護は必ずあり、それが皆様一人ひとりの芯であります。また皆様がいただいていた御守護を振り返っていただければ、そのおかげで今日の信仰者としての自分があることが分かり、それが分かれば御恩が分かり感謝と報恩の心がわいてくるのです。これもまた私達の信仰の芯となるのです。

私達の信仰にはこの確かな芯があるのだということに据え直して、この度の節から強く太い芽が出る御守護を頂けるように、信仰の元一日に思いをいたし、親々の道すがらに感謝し、頂いた御守護に感激した一日を思い返し御恩報じの道を歩ませていただきたい。そして、一手一つに心勇んで時句の

御用を勤めさせていただき、ひたむきに成人の道を歩ませていただきたい。

▼「人生が変わる講習会」への参加

さて、8月28日からいよいよ後継者講習会が始まりました。勇んで参加した人、疎遠になっていたところを嫌々ながら参加した人、貴重な3連休を親の顔をたてるためにしぶしぶ参加した人、それぞれの思いで参加されたわけですが、受講後には、参加して良かった、これからの指針が見えた、人をたすけられる様になりたいと、皆一様に喜んでおられ手応えを感じております。

この後継者講習会のテーマは「日々の陽気ぐらゐの実践」です。陽気暮らしとはどういう世界なのか。簡単に言えば、親神様をやと慕う人間が、お互いに兄弟として支え合う、補い合う、励まし合う、そして助け合う世界のことだと思えます。講習会は、受講者自身が、どのようにすれば陽気ぐらゐが実践出来るのかを考える機会です。

陽気ぐらゐの実践の一つには、日々の言葉遣いを変えることです。人間には意識があり、意識は言葉によって

引つ張られます。言葉によって引つ張られた意識、つまり心はその引つ張られたような心になってきます。心が変われば陽気ぐらゐが出来ます。これが理の当然なのです。

この道の御守護は、願い通りでも、思い通りでもなく、心通りの守護なので、なってきた心通りの世界が目の前に現れてくるのです。おさしづでは日々嬉しいく通れば、理が回りて来る。なれど、こんな事ではく、と言うてすれば、こんな事が回りに来る。(明34・7・15)

と、お諭し下さっています。どのような事が起こっても、不足せず、これも御守護だと嬉しい有り難いと通っていれば、そうした理が回ってくると教えられているのです。

これは陽気ぐらゐ実践の一つの方策だと思えますが、この後継者講習会の3日間、矢印を自分の心に向けて、どうすれば陽気ぐらゐの実践が出来るのかを自分自身に問いかけて、共に考える3日間なのです。

皆様は銘々に立場は違えど、お道の信仰者です。しかし一旦地元に戻れば周囲は圧倒的に信仰していない人が多いので、どうしても世間の考え方に身

を置かなければなりません。自分さえ良ければ、今さえ良ければという考え方が残念ながら主流な世の中で、若い世代の道の後継者がそうした流れに飲み込まれかねないと危惧しています。

心の矢印を他人や目の前に現れてくる事に向けて影響され右往左往してしまうような日常から一旦離れて、おちばで矢印を自分の心に向けて信仰者としての在り方にじっくり思案を巡らすことは、受講者にとつて大変貴重な時間になるに違いありません。

私は、この3日間で受講者に良い影響を与えたすけ一条に歩み出す者が出てくる事に、大いに期待をしています。

後継者講習会の実行委員長を務めておられる真柱継承者中山大亮様は「人を喜ばす方へ、人をたすける方へ心の向きを変えていけば、必ず人生が変わっていきます。今までよりも必ず喜んで通つて行くことが出来ます。将来、『あの後継者講習会があったから、私の人生は変わったのです。あの講習会が無ければ今の私はないのです。』と言つてくれるような人が出てくるような、そんな人生が変わる講習会にしていききたいと、本気で思っています。」と仰いました。

この講習会は、おちば・おやさどをやの息を掛けていただき、大亮様をはじめたくさんの人に温かく迎えられ、心を込めて丁寧になんて言っていたら、おちばでしか出来ない子弟育成の絶好のチャンスです。

まだ声が届いていない対象者もあるかもしれませんが。どうかそうした子弟には必ず声を掛けていただきたい、また1度断られた子弟にも2度、3度と丁寧に、粘り強く声を掛けていただき、10年に1度の旬を得た全教挙げての講習会に参加を促していただきたいとお願い申し上げます。

▼教祖の温かい親心に包まれるように

今日の旬の最も大切な御用の一つが、人材の育成です。自ら成人の努力をし、そして人にも成人をしてもらう。これがお道の人材の育成です。まず自分が成人の努力を重ねる事を忘れてしまつては、人材育成自体が上滑りをしてしまいます。

私達は、教会を足場に成人をするのです。悩み苦しんでいる時に手を差し伸べ導いてくれるのが教会です。しかし、いつまでたつても教会が何かをしてくれるという思案の上に立っていた

ら、成人は決して伴いません。いんねんあつて寄せられた教会で何が出来たのか、何をさせていたただいたら良いのか、思案していただきたいのです。

教会におけるよふぼくの役割を建物に例えますと、基礎にしる柱にしる壁にしる梁や桁にしる、それぞれの役割をしつかりと果たし、それ自身が自分の役割を主張せずに互いに支え合い繋がり合うところに、建物は維持されます。教会におけるよふぼくの役割はこれと同じなのです。

いんねんあつて教会に繋がっているのですから、一人ひとりの徳分に応じた役割が必ずあるのです。教会や上級でいつまでもお客さん気分であるのではなく、なにか御用を担わせていただくところに成人の道があり、信仰の喜びが生まれ御守護も現れてくるのです。

親神様が一人ひとりに深いお心をおかけ下さつて、よふぼくに導いて下さつた真実を忘れてはいけません。よふぼくは誰もが、親神様の思召しにお応え出来る魂を、資質を、いんねんを備えているのです。自分の教会での役割を思案し、積極的に教会の御用を

担い、いんねんある教会を足場に成人の努力を重ねていただきたいのです。

そして自分が育つ努力をしつつ、人を育てるお道の人材育成をしていただきたい。教会長を芯に、関わる者が一手一つに、教祖の温かい親心に包まれるような教会を目指す努力を重ねるところに、人が集まり、よふぼくが育ち、人材育成が進む土壌が出来るのでないでしょうか。

真柱様が、教祖130年祭の神殿講話で「特に、陽気ぐらしの世界建設のために立ち働くよふぼくを育てること、増やすことに力を入れなければならぬ」と仰せ下さいましたように、人材の育成とは、よふぼくの育成、増やすことに尽きるのです。後継者講習会を実のあるものにする 것도、ここに繋がっていくのです。

この道の信仰の究極の目的は陽気ぐらし世界の実現、そのための一里塚が十年一節の教祖の年祭です。今お道は、教祖140年祭への歩みを進めている最中です。この次の成人の塚に向かって、お互いに教会長として、またよふぼくとして、陽気ぐらしの世界建設のために立ち働くよふぼくを育てること、増やすことに気持ちを込め、力を入れて

にをいがけ・おたすけに、修理丹精に、理の伏せ込みに、しっかりと働かせていただきましたと存じます。

どうか皆様方の心勇んだ成人をお願ひいたし、共々に140年祭に向けて勇んで歩みを進ませていただきましょう。

《以上要約》

註) ホゾが折れた段の寸法は、差し渡し1尺2寸(約36cm)、厚みが6寸(約18cm)の六角形で、ホゾ部分は3寸(約9cm)の直径で5分(約15mm)の出っ張りがある。



三ヶ月で思ったこと

海松ヶ岡分教会 小寺大成

僕が3ヶ月修養科を通して思ったことは、3ヶ月の間がまず修養科がはじまるまでの1週間が大変でした。一日中ずつとひのきしんでしたので毎日つかれがたまっていくのでつらかったで

す。そのときはなんで毎日ひのきしんしないといけないんだとも思いました。

それから1週間が過ぎて修養科がはじまりました。最初はこんなに人がいるのかいやだなと思っていました。元々人が多いところは苦手なので、こなければよかったですとも思っていました。

でも日が経つにつれて友達が増えていって徐々に楽しくなっていきました。一緒に長期ひのきしんをやったり特別ひのきしんをやったり仲間になつていって修養科にきて良かったと思えました。特に子どもおぢばがえりの特別ひのきしんは、一番良かったと思えました。他の組の人と一緒にやったのでそこで友達がふえたのでこの時期にきてよかったです。

詰所のひのきしんは起きたらやっていきました。朝が起きられなくてよく起こしてもらっていました。起こしてくれた人には感謝しています。そのおかげで朝の神殿掃除は全部行くことができました。

回廊拭きはいいと思いました。回廊拭きは最初の方はひびがいたくてもうやらないでおこうと思ったんですが続

けてやっていくうちにだんだんひびがなれてきて回廊拭きは気が楽になるの

で後いらいらの気持ちがおさまるので3ヶ月目の半月ぐらい日が経つてから終わるまで毎日していました。そのおかげでやることもできました。

今回修養科にきて3ヶ月ふりかえって今思うのは人と仲よくして人の話をよく聞いていけばつらくても楽しい3ヶ月になると思いました。僕はそれがむりでしたけど(笑)

修養科で気づけたこと

新山邑分教会 三島美保子

修養科で学ばせて頂いた中で心に残っているのは、親孝行と親に繋ぐ事の大切さ、それらを疎かにしてきた事に気づけた事です。これまで親に喜んで貰える様にとやってきた事が随分と見当違いだったと知りました。両親・会長さんには本当に申し訳ないと思います。

何となく行く様になった修養科で私は何を学び感じ取り、どういう心構えで通れば良いのか全く心の準備が出来てなく、組係としてクラスの方達に充分な心を配れないほど自分の事しか考

えていない状態でした。クラスの方達の為に出来る事は何だろうか?と焦って大きい事をしようになる時に「小さい事に心を込めて」と先生が助言して下さいました。恥ずかしいのですが今まで「私はちゃんと出来ている」と思っていた事が全然そんな事なかった!と思ひ知らされ情けない姿をたくさん晒しましたが、家に一人でいては気付かなかつたし、この三カ月は今までの自分を考え直す時間でした。

9月に入ってふと28年前に病氣から修養科へ行った母の事を思い出しました。何で私は修養科に来たのかとずっと考えながら過ごしていて、自分の人生を切り替えるためだったのと、28年前に母が必死で過ごしたおぢばでの三カ月を経験するためだったのかなと思います。

三カ月間6人の教養掛の先生にお世話をいただきました。修養科の事を氣遣い過ぎてご自身が思われるような動きが出来なかつたのではないかと感じています。先生方に勇んで頂ける雰囲気と修養科生でなくて申し訳ございませんでした。

修養科後のこれからを大切に自分を鍛えていきます。

障子張り替え ひのきしん 実施

10月3日・4日

管理部



管理部(虫明立生部長)は、10月3・4の両日、神殿・会議室・信者室等の障子張り替えひのきしんを行い、管理部・



青年会を中心に神殿前と信者室に分か

婦人会・青年会など延べ107人が参加した。

流れ作業で手際良く進められた

3日は午前8時30分から神殿の障子の取り外しや外での水洗いの準備をし、10時から婦人会80人も加わり手際良く水洗いをし、作業は午前中に終



父親講座で話される増田正義先生

教会長子弟育成委員会(森本忠善委員長)と青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、10月1日、講師に増田正義先生(典日分教会長)を迎え、大教会で「父親講座」を開催した。

「父親講座」開催 教会長子弟育成委員会 青年会笠岡分会 共催

れての障子張りに専念したが翌日に持ち越し午後3時までに障子張り、片付け等すべての作業を終了した。
また3日に大教会の敷地から隣家に
出る貝塚の木の伐採も2人で行った。

これは、子弟育成委員会の『育てる心を育てよう』のスローガンの下、信仰に基づいた父親のあり方を学ぶ機会として、始めて開催されたもので、高校生から70代の男性、夫婦や子育て中の女性など、72人が受講した。
当日は講話と質疑応答の時間があった。講師の自身のエピソードを交えた「心の基準」や「育成」の話に、会場は涙と笑顔に包まれた。受講者は、「家族、夫婦」の有り難さについて改めて感じ、陽気ぐらしのヒントを得た。
子弟育成委員会と青年会は、来年以降も「父親講座」の開催を予定している。



熱心に聞き入る受講者

タンザニア 訪問記①



大教会役員夫人
上原 千枝子

今から13年遡り、家族でにいがけに歩かせてもらおう中、子供達が「ハロー」と1人のアフリカ人に声をかけて始まった縁が私達とタンザニアの出发点です。3年間のメールでのやりとりの末、ようやく再来日し、おやさまに感銘を受けてよふぼくとなつてくれたマungaさん。

「今度は志郎がタンザニアに来て孤児達の心を支えたり病気の人々におさづけを取り次いでほしい」と2009年に初めてのおたすけ訪問が実現し

た。初めてタンザニア訪問をする主人と共に様々な情報を集め、出来るだけの備えと心づくりが続いた。渡航するメンバー皆が無事に帰って来られるよう災いは全て私が引き受ける!と主人の留守を緊張で過ごした。同行してくださったメンバーのご家族も同じ気持ちであつたと思います。緊張の時間を過ごすのは子供達も同じで、匂いほともかく主人が無事家に帰ってきたことを心から喜んで抱きついていった。初めて見るタンザニアの写真と話に時間を忘れて聞き入った。

その後、タンザニアから天理教の勉強をさせてほしいと紹介された人達の世話取りに幾度となく空港に足を運び、時には税関のやりとりで入国できぬまま帰国される人もあり。様々なお

手伝いをしてくださる方々に多大なる労力と心配をいただき乍ら、どこに向かつて行くのか、泥船に乗っているような気持ちで動き始めていた。

2010年、マungaさんと1人の女性が来日した。昨年、タンザニア人第1号で修養科を修了したエディナである。1月の厳寒の中、Tシャツとサングラスで空港に降り、主人が来ていたジャケットを渡しそのまま夜中の大教会にやってきた。あまりの寒さに顔も強ばり不安そうな表情で挨拶してくれたことを今でも思い出す。後から聞いてみると日本に来るため安いチケットを探し、ドーハの空港で一週間も寝泊りをしていただけそうだった。そのころ小さな子供達で賑わっていた大教会の食堂で

お下がりのバナナを渡すと、自分1人が食べるより子供達皆に食べさせてあげようと言葉も通じないが子供たちに分けてくれようとしていた姿は、親の暖かさを感じさせる微笑ましい場面だった。一夫多妻制が残るタンザニアの文化の中、女性はとても理不尽な境遇に置かれていることが多いそうだ。天理教は男女の立場をどう説いているのだろうかと熱心に聞いてきた。おやさまの教え、教祖が女性であつたとい



おやさまのお手引きを頂いて
エディナがおちばへ

うことが彼女の心にはとても強く残っていた。「必ずよふぼくになるために戻ってきたい」と彼女はビザの関係で別席半ばで帰国した。2回目のおたすけ訪問からは彼女も受け入れに力を寄せてくれるようになった。第1回の経験を元に1年に1度の訪問を続けられてきた。



10年前、おやさまの教えに感銘を受けたマungaは次の年の来日で、おやさまに世界の子供たちが寄り添っているイメージの木彫りを作成しておやさまにお供えした。

毎回様々な出会いと出来事があるようだ。月日を重ねる毎に現地の人達の様子も変わっているらしい。ただ変わらない事の1つに、早く拠点になる場所、おさづけを受けられる、おつとめをつとめられる場所をつくってほしいとの声がある。今回は9回目の訪問となる。今回のメンバーは誰だろう? いつ? タンザニアからのメールのやり取りも頻繁になる…。

(続く)

教会おとまり会の報告

▼笠尋隊

実施日 29年3月30日～4月1日
参加人数 少年会員7 育成会員5
合計12

内容 タづとめ、ひのきしん、

神様のおはなし、お風呂、ゲーム、食事、笠岡大教会少年会おとまり総会おとまりまなび・鳴物まなび。

プログラム 4/1に行われる笠岡大教会

少年会おとまり総会へ向けての鳴物練習を2日間練習しました。

感想 直接鳴物に触れてみて、

初めての子供たちもたのしそうに鳴物まなびができました。

▼高屋隊

実施日 29年8月4日～5日

参加人数 少年会員6 育成会員6
合計12

プログラム おつとめ、おはなし、ひ

のきしん、ごはん作り、おやつ、プール、川遊び。

感想反省 人数は少なかったです

が、皆んな和気あいあいとても楽

しそうでした。初めて参加した3名も、とても楽しかったと、喜んでくれました。来年はもっともっと人数を増やせるようがんばりたいと思います。

▼廣町・福廣合同隊

実施日 29年8月8日～9日
参加人数 少年会員4 育成会員5
合計9

プログラム 朝づとめ、タづとめ、ひ

のきしん、神様のおはなし、お風呂、どこかへ出かける、食事、学校の宿題、プール、ラジオ体操、おつとめ

鳴物練習、花火、ソーメン流し。

感想 子供おちば帰り(8/1から

8/3)から帰宅したばかりで参加出来ない人が多く少人数の参加でしたが、大変(何をして)楽しく、良かったとの感想でした。

▼坪生隊

実施日 29年8月10日～11日
参加人数 少年会員10 育成会員6
合計16

プログラム おつとめ、おはなし、ひ

のきしん、ごはん作り、おやつ、プール。

感想反省

近所の子供達、又以前KOGに参加してくれた子供達と楽しくお泊まり会をさせて頂きました。10日は、夕食づくり、花火等をし、11日にはプールに行かせて頂きました。スタッフにこのお泊まり会参加者がつとめてくれありがたかったです。

▼福満隊

実施日 29年8月12日～13日
参加人数 少年会員10 育成会員14
合計24

プログラム おはなし、ひのきしん、

おつとめ、ゲーム、ソーめん流し、海水浴、花火。

感想反省 年齢層に幅があり、心配

しましたが、皆仲良く助け合って楽しんでくれました。日程が盆と重なり、参加者が少なかったです。初めての試みでソーめん流しをしました。が、好評でした。

▼富士隊

実施日 29年8月19日～20日
参加人数 少年会員4 育成会員8
合計12

プログラム おつとめ、おはなし、教

会周辺ゴミ拾い。

感想反省 今年2回目のお泊まり会をさせて頂きました。今回は、この度こどもおちば帰りに参加してくれた方を対象に致しました。こども同士がコミュニケーションの取り方を学んだと、親に伝えるなど細々ながらも継続して開催している効果少しずつあるように思われます。狭い教会ですが有難い限りです。

▼東水島隊

実施日 29年8月21日～22日
参加人数 少年会員3 育成会員8
合計11

プログラム おつとめ、うた、ごはん

作り、おやつ。

感想反省 今年は教会長子弟だけのおとまり会となりました。

教会こども会の報告

▼川島郷隊

開催日 29年6月18日
参加人数 少年会員11 育成会員7
合計18

プログラム おはなし、ひのきしん、

ごはん作り。

感想反省 ギョーザの皮を粉から作って焼ギョーザと水ギョーザでいただきました。とても旨かったです。たくさん作ったので夜にはそれを肴にしてビールを飲みました。最高に旨かったです。

回への要望 15年程前から毎月開催しているのですが、ネット切れになりかけています。何か楽しい企画があれば是非、教えて下さい。

▼島根隊

開催日 29年8月12日

参加人数 少年会員7 育成会員5

合計12

プログラム おつとめ、おはなし、鳴り物、ひのきしん、ゲーム、おてふり練習 おやつ。

感想・反省 ひのきしんが少ししか出来なかった。お盆の前だった為、思う程、子供の集まりが悪かった。次回は早めに計画してやりたい。

▼大恵山隊

開催日 29年8月12日

参加人数 少年会員4 育成会員7

合計11

プログラム おつとめ、おはなし、鳴り物、おてふり練習、ごはん作り、花火。

感想・反省 月次祭終了後、夜21時頃まで楽しくにぎやかに子ども会をつとめさせて頂きました。来年は子どもおちばがえりにたくさん参加できるようにつとめさせて頂きたいと思っています。

▼安那隊

開催日 29年8月13日、14日

参加人数 少年会員6 育成会員4

合計10

プログラム おつとめ、おはなし、鳴り物、おつとめ練習、ごはん作り、おやつ、こどもおちばがえり参加の想い出話(初参加2人)。

感想・反省 今回は夏休み中のため、1泊2日間の日程で実施しましたが、2ヶ月に1回位、日曜日・祝日などを利用した1日のこども会を行いたいです。

▼真金隊

開催日 29年8月20日

参加人数 少年会員1 育成会員5

合計6

プログラム おつとめ、おはなし。短い時間でしたが少年会

感想・反省

員に話しの取り次ぎをする事が出来て良かったです。

テーマ『育成』

私たちが家庭や社会、教会などでそれぞれの立場に与えられる人の『育成』について共に考えます

内 容 講話、感話、グループタイム、昼食会など

講 師 瀬藤友昭先生
大恵山分教会長
広島県立東高等学校(通信制)校長

参加対象 18歳～50歳位までの男女

その他 参加費500円、筆記具持参
託児あり(申込書に記入)



11月23日(祝・木)
笠岡大教会

午前 9時半 受付
10時 開講
午後 3時頃 閉講

※別紙申込書に必要事項を記入の上、10月29日までに

大教会神事所に提出下さい

・詳しくは大教会 上原明勇まで

教会長子弟育成委員会

立教百八十年 九月月次祭 祭典役割表

控	胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり				おつとめ			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者			
										門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	吉岡繁道	上原繁道	大教会長様	田林久嗣				森本忠平	佐藤道孝	大教会長様	三島涉	今川昌彦	大教会長様
内海史郎	上原順子	今川佐智子	虫明好美	中島誠治	笹尾正治	谷内伸自	中村義太郎	山野弘実	杉原博之	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	吉岡繁道	上原繁道	大教会長様	田林久嗣	森本忠平	佐藤道孝	坐り勤	布教推進講習会	大教会長様	三島涉	今川昌彦	大教会長様	三島涉
	岡崎豊子	谷内美知子	武内正美	赤木素志	高木昭祥	上原繁次	森本忠善	渡邊隆夫	吉岡誠一郎	横山小智榮	中村初美	内海安子	中村道徳	岡崎真一	中村邦義	山田敏教	上原浩	大教会長様	前半	十一月講話	贊者	指図方	山田敏教	渡邊隆夫	上原繁道
	山野なつ	高木孝子	三島照美	田中隆之	武内清明	佐藤真孝	田林久嗣	浅野明教	横山逸郎	田中つかさ	室悦子	門脇加津	今川昌彦	上原志郎	門脇元教	岡田誠	三島涉	中村剛	後半	海外伝道講習会	贊者	指図方	山田敏教	渡邊隆夫	上原繁道

立教百八十年 秋季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり				おつとめ			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者					
									上原順子 <th>田中ますみ <th>大教会奥様 <th>中村剛 <th>中村邦義 <th>上原繁道 <th>浅野明教 <th>今川昌彦 <th>大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> </th></th></th></th></th></th></th></th>	田中ますみ <th>大教会奥様 <th>中村剛 <th>中村邦義 <th>上原繁道 <th>浅野明教 <th>今川昌彦 <th>大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> </th></th></th></th></th></th></th>	大教会奥様 <th>中村剛 <th>中村邦義 <th>上原繁道 <th>浅野明教 <th>今川昌彦 <th>大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> </th></th></th></th></th></th>	中村剛 <th>中村邦義 <th>上原繁道 <th>浅野明教 <th>今川昌彦 <th>大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> </th></th></th></th></th>	中村邦義 <th>上原繁道 <th>浅野明教 <th>今川昌彦 <th>大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> </th></th></th></th>	上原繁道 <th>浅野明教 <th>今川昌彦 <th>大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> </th></th></th>	浅野明教 <th>今川昌彦 <th>大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> </th></th>				今川昌彦 <th>大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> </th>	大教会長様 <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td> <td>吉岡誠一郎</td> <td>大教会長様</td> <td>岡崎真一</td>	大教会長様	岡崎真一	吉岡誠一郎	大教会長様	岡崎真一	
内海安子	森本富美子	佐藤香苗	佐藤真孝	渡邊隆夫	岡崎真一	岡田誠	中村道徳	上原繁次	上原順子	田中ますみ	大教会奥様	中村剛	中村邦義	上原繁道	浅野明教	今川昌彦	大教会長様	前半		贊者	指図方	大教会長様	岡崎真一	吉岡誠一郎	大教会長様	岡崎真一
吉岡八恵	笹尾一美	岡崎豊子	掛谷和由	余村健	渡邊泰造	下田誠輝	小坂静宏	上原浩	岡崎和美	谷内美知子	武内正美	田中亜輝	三島涉	田中隆之	高橋徳行	豊田宏哉	上原志郎	後半		贊者	指図方	上原繁次	佐藤真孝	佐藤真孝	上原繁次	佐藤真孝

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には子供かわいい一条の親心から 昼夜を分かつた又分け隔て無く御守護下さりお育て下さっております事は誠に有難い極みでございます しかるに心通りの御守護の世界である事を知らず加えて世界一列兄弟である事に気が付かず兄弟同士がいがみ合つて 知らず知らずの内に心にほこりが積もつていんねんとなり お与え通りに御守護を頂けず身上事情に苦しんでいます事は誠に申し訳ない次第でございます 人に先んじてこの道にお引き寄せ頂いた私共は世界一列を助けたいとの親心にお応えすべく 目に見えず気付かずにいる心の真理を一人でも多くの人に伝えたいと日々は朝夕に御礼申し上げつつ 特に今月はにいがけ強調月でございますので普段にも増して たすけ一条のご用の上に努め励まして頂いております

中でも今日の吉日は九月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めさせて頂きます 御前には朝晩すっかり涼しくなり過ぎやすくなった喜びを胸に 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ尚も変わらぬ親心にお縋りたいと 共にお歌を唱和する皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本日は祭典に引き続き布教推進講習会を開催させて頂きます三年連続で井筒梅夫先生にお越し頂き誠に勿体ない限りでございます しっかりとお話を聞き心に納めさせて頂いて 思いに込めるべく実動に励ませて頂く所存でございます 又来月は秋の大祭月でございますので 直轄教会の大祭参拝をさせて頂き 次の塚教祖百四十年祭に向け歩み出しの年になっているか確認し合うと共に たとえ僅かずつでも確実に成人の歩みを進める事を誓い合いたいと思えます 更には又世界の情勢を見れば先行き不安であり 私共の使命は急務であると感じます 出来る事は微々たるものかもしれませんが 一杯にたすけ一条のご用の上に努めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 皆の親孝心一筋に歩む誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り 親神様の御守護の世界である事が心に治まり万互いに助け合つて 陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されています。(敬称略)

▼『天理時報』

▽10月8日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

目の手術終えたる夫が病室に

車椅子にて送られて来ぬ

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

君の手が私の髪にふれた時

鼓動の高まり 夢から覚める

▽10月15日付「時報俳壇」

・備中◎ 塩飽利子さん

定年の無き草取りや木句の秋

▽『陽気』誌10月号「道柳」より転載。

▽新友

・福東◎ 藤井宣人さん

生かされしおたすけのご用に勇む我

▼表紙写真

(東城分教会提供)

大教会だより

◎第九一五期修養科

自 立教180年7月1日

至 立教180年9月27日

* 教 養 掛

一ヶ月目 門 脇 元 教

秋季 霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自の神霊 歴代会長と共に道の礎の頃より 真実を伏せ込んで下さいました役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の神霊 諸々の神霊の前に会長上原理一慎んで申し上げます

祖霊様方には真実の親 親神様教祖のお引き寄せを頂かれこのお道の人となられて後は 我が身我が家のいんねん納消と共に世界一列助けたいとの親心にお応えすべくたすけ一条に邁進されましたしかしその道は決して順風満帆な道では無く茨苦勞の道でありましたが どんな中も先を樂しみにむしろ苦勞を結構と勇んでお通り下さいました 今日親神様教祖のお導きで結構な姿を見せて頂いておりますが 一つには祖霊様方のそうした真実の伏せ込みの賜と日々は朝夕に御礼申し上げ 後を慕うてたすけ一条の道を歩ませて頂いております

そんな中本日は 立教百八十年秋の霊祭を執り行う日柄でございますので 親神様の御前にてをどりを勤めさせて頂き引き続き改めて御礼申し上げますと祖霊様の御前に馳せ参じました 御前には旬の海川山野の物を供えて 祖霊様の在りし日の面影を偲び御遺徳を称える皆の真実の状をご覧下さいまして 祖霊様方にも心穏やかに御見守り下さいますようお願い申し上げます

さて立教百八十年の今年 教祖百四十年祭に向け歩み出しの年として道の後継者育成を目指して成人の歩みを進めさせて頂いておりますが 世情は個々の主義主張が強くなる一方 情報共有したいが干渉はして欲しくないとの矛盾した思考が主流となり 世界情勢までもが混とんとしています そんな中だからこそ一人でも多くの人に親の思召を伝えて行かなければなりません ようぼくとしての使命感を持ってしっかりとたすけ一条の上に努め励ませて頂く所存でございます

何卒祖霊様方には 時代の変化に惑わされず親孝心一筋に歩む後に続く者の誠真実の心をご覧下さいまして 万たすけの上に尚も自由のご守護を賜り 勇み心一杯にこの道を通れるようお見守りお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

(大教会役員)

島根分教会長

藤井正仁

(福富士分教会長)

渡邊隆夫

(大教会准役員)

神昭分教会長

村川和司

(大江橋分教会長)

虫明立生

(大教会准役員)

陽備分教会長

矢田哲一

(八尋分教会長)

*修了者

海松ヶ岡 小寺大成

新山邑 三島美保子

◎教会長資格検定講習会修了者

立教180年10月19日終講

新輝豊 杉本美由希

◎本部食堂ひのきしん

自 立教180年10月1日

至 立教180年10月15日

稲倉森 敬子

◎立教180年秋季大祭参拝

福山 大教会長様

驛島	服部	東城	府中市	上野	明石市	皆部	新山邑	輝美濃	照陽	吸江	東悠	海松ヶ岡	呉照	芳井	陶山	ひろさと	興明	金浦	摩耶	陽備	弥高山	鶴山	久松	島根	神邊	高屋
佐藤	上原	上原	大教会	吉岡	中村	吉岡	田中	大教会	門脇	上原	大教会	中村	中村	中村	大教会	中村	門脇	上原	武内	田中	佐藤	武内	大教会	中村	佐藤	大教会
道孝	明勇	繁道	奥様	奥様	邦義	隆義	之	奥様	元教	繁道	奥様	剛	剛	剛	長様	元教	繁道	正美	隆之	道孝	道孝	奥様	剛	道孝	長様	

油木	上原	明勇
草陽	大教会	長様
湯田	原吉岡	壽
備中	吉岡	壽
神昭	上原	明勇
美之郷	田中	隆之
錦備	佐藤	道孝

※お詫びと訂正

本年9月21日発行の『かさおか 第56巻第9号』5ページ「このころの詩」末尾の「▼表紙写真(吉岡輝昭かさおか編集部員)」は「▼表紙写真(友井道弘かさおか編集部員)」の誤りでした。また、同10ページ「立教百八十年八月月次祭 祭典役割表」の内、後半をどり「田林美智子」は「谷内美知子」の誤りでした。

読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させて頂きます。

訃報

豊田住江姉

府中市分教会前会長夫人

9月6日出直されました。享年 97才

村川和司氏

大江橋分教会長 10月3日出直されました。享年 56才



いつもいつもお世話になっております。さてこの度は、待ちに待った「よりみち」の提出日が例年の如く、風のように過ぎてしまいました。

この月十月は秋の大祭月。無事に当教会の祭典をさせて頂く事が出来ました。

毎月、いつもながらの事です。決まった様に祭典の二日前の朝食頃から夫婦間で些細な事からお互い負ける事の無い口論が始まり、前日の午後三時頃になると、やつとどちらからともなくいつもの会話になっています(時には祭典の始まる直前まで続く事もあります)。祭典が終わると何も無かった様に月日は流れますが、次の祭典日

の二日前には、また同じ出来事が始まります。

よくよく考えてみれば、私が会長にならせて頂いて以来、祭典の準備の時には、あの人はこちらで、この人はあそこで、その人はここで——と、また食事については当番の人達がと——役割が決まっていたので、今ほど動く事も、考える事も無く祭典が無難に終わっていました。

しかしながら、当教会の信者さん方も世間に負ける事なく、高齢化の波に無事乗られ、以前の様な訳にはいきません。たとえ身上や事情の中であつても一人でも多くの方に参拝に来て頂きたいというお互いの思いから、これまで信者さんがして下さっていた事を、今度は私達がさせて頂く事とするため、ここはこうすれば、あそこはこうすれば、少しはこつちを手伝ってよと、夫婦で思い考えながらするので結果、小さな対立が生まれ、ついにはお互い負ける事の出来ない口論になります。しかし、参拝して下さった方々に喜んで帰って頂きたいという思いはお互い変わりません。

と言つても、まだまだしばらくは続きそうですが——。

(と)

